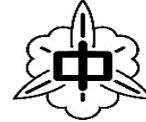




旅立ちの時



本日の卒業式で卒業生に贈った式辞を以下に紹介させていただきます。

式辞

「GRIT-やり抜く力」の学年目標のもと、自分や仲間の夢実現に向けて走り切った、七十八期生、百十九名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また保護者、ご家族の皆様、本日は、お子様のご卒業、本当におめでとうございます。教職員を代表して心からお祝いを述べさせていただきます。

さらに本日は、日頃より子どもたちや学校を温かく見守っていただいているご来賓の皆様にもご臨席賜り、感謝申し上げます。高いところからではありますがお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

今、一人ひとりに卒業証書を手渡しました。みなさんとはたった一年の付き合いでしたが、感慨深い気持ちで一杯です。出会った当初は正直言うとどこか、大人を受け入れない壁がみんなにはあるように感じました。しかし、一人、二人と話していくうちにみんなの良さや優しさを感じる事ができました。その一つが修学旅行です。様々な体験学習に積極的に取り組み、全力で楽しんでいました。

そんなみんなの力が2日目夜のレクリエーション大会に表れていました。仲間を思い、認めることができるからこそ、腹の底から笑い、応援し、大いに盛り上がる。そんな見ているだけでも楽しめるレクリエーション大会でした。大成功の大きな一因は最初の出し物だったと思います。ある曲に振りをつけるだけのものですが、恥ずかしがらずに、**本気で取り組むカッコよさ**がありました。このおかげで後の出し物もレベルアップしたように思います。

中でも、番組さながらの凝った映像を駆使して行ったIPPONグランプリ、様々な大喜利のお題に即興とは思えない回答の連発に、センスの良さを感じました。面白かったです。さらには、小道具の完成度の高さにも驚きました。細部にこだわった作品は劇をさらに良いものにしていました。このように、みんなの持つ本当の強さを感じたレクリエーション大会でした。

体育大会では集団演技の「南中ソーラン」はやはり忘れることはできません。「かまえ」の凛とした声でグラウンドの空気を一変させて始まった圧巻の演技は、後輩たちへ**つながり行く伝統をその背中を示してくれました**。

さらに、合唱コンクール。練習を重ねるごとに厚みを増し、体育館全体を震わせるハーモニーへと変わっていった瞬間、聴くものの心を強く打ちました。中学校の合唱コンクールとは思えないレベルの高い合唱には、ただただ感動しました。そんなことを思い返していると、もっともっと皆さんと野田中学校での生活を過ごしたかったなあと思います。しかし、いよいよお別れの時です。そして旅立ちの時です。そんな巣立ちゆく皆さんに最後にお話したいことがあります。

皆さんは、手塚治虫さんという漫画家を知っていますか。

漫画の神様と言われ、誰もが知る「鉄腕アトム」の作者であり、日本のアニメ文化の発展に大きく貢献した巨匠です。手塚さんは、常にベストを尽くそうとする完璧主義者。気に入らないと土壇場で作品を作り直してしまう性格で、アニメの放映が間に合わなかったり、長編映画『クレオパトラ』では、初日と千秋楽で内容が変わってしまったということもあったようです。このような採算を度外視した経営の結果、なんと4億円もの負債を抱えて倒産してしまいます。これが手塚さんの人生最大の挫折だったと言われています。

しかし、その失意の最中でも、自分を信じて漫画を描き続け、すぐに結果がでなくとも、**自分自身が自分の味方**となって、制作から決して手を引くことはありませんでした。その後、再起のきっかけとなった作品が、あの『ブラック・ジャック』。『鉄腕アトム』に次ぎ、誰もが知る名作は挫折の後に誕生した作品だったのです。そんな手塚さんが座右の銘にしていたのが、「**人を信じよ、しかしその百倍も自らを信じよ**」という言葉です。

私たちが、他人のために心を尽くすとき、その土台として必要なもの、すなわち、自分の芯の力強さと、何があっても人を信じる温かい心、それこそが大切だと感じる言葉です。どうか何があっても自分を信じ続け、みなさん一人ひとりの夢や目標が叶うことを願っています。

では、卒業生の皆さん、野田中学校はこれからも「**止まり木のような学校**」としてみなさんを見守っています。

在校生も皆さん同様しっかり足跡を残してくれると信じています。安心していてください。最後に皆さんが、これから始まる新しい世界を威風堂々と歩んでいかれんことを願い、私のお祝いの言葉とさせていただきます。